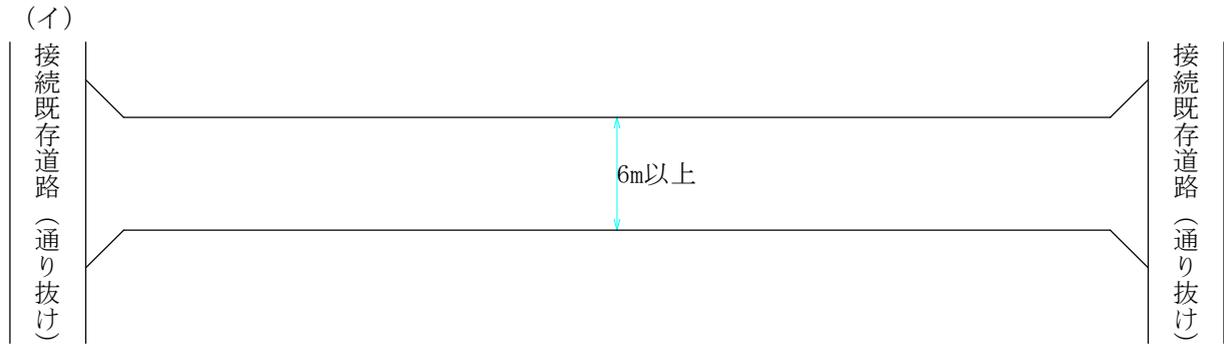
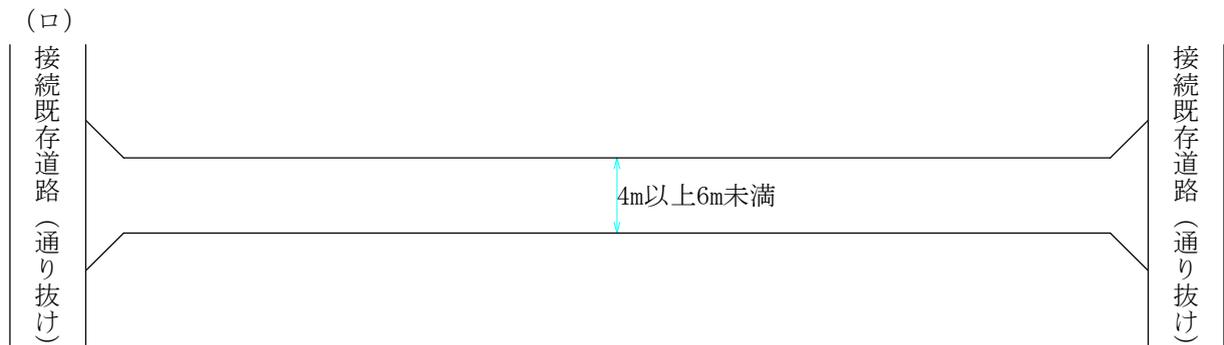


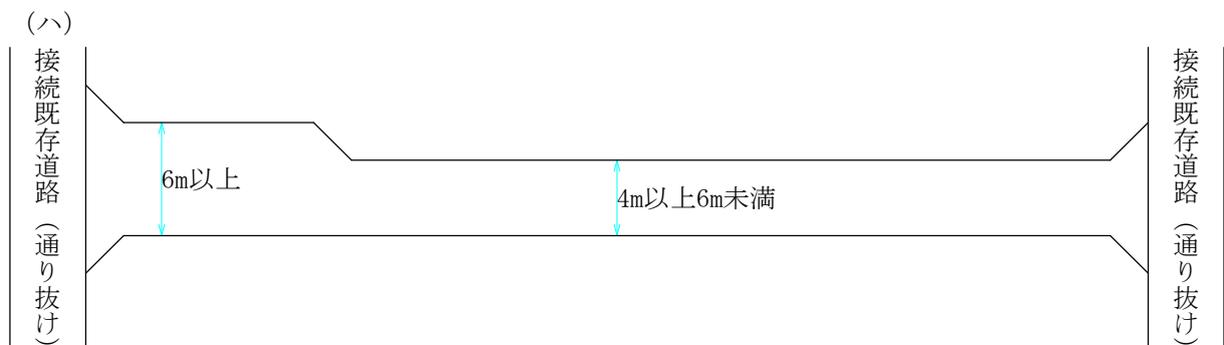
別図第1 指定道路の基本形 通り抜け道路（第6条関係）



総延長（幅員が6m以上であれば小区間の制限はなく、自由な長さで計画が出来ます。）



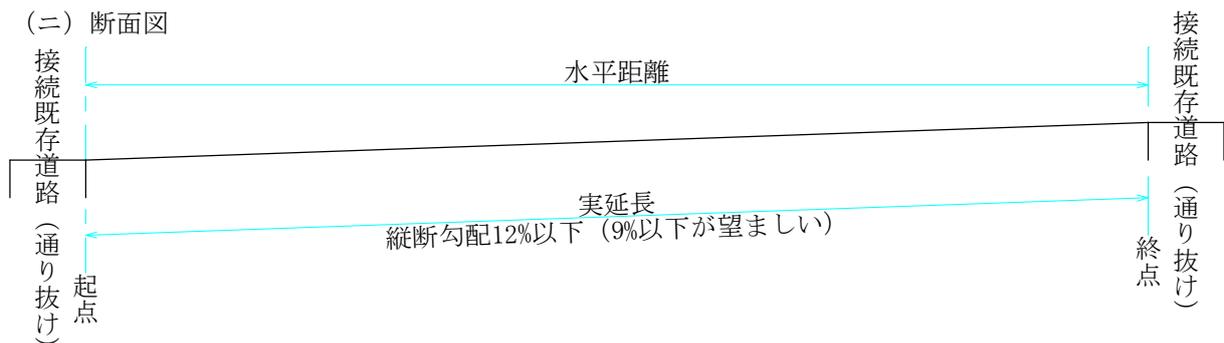
総延長（区間延長合計）120m以内



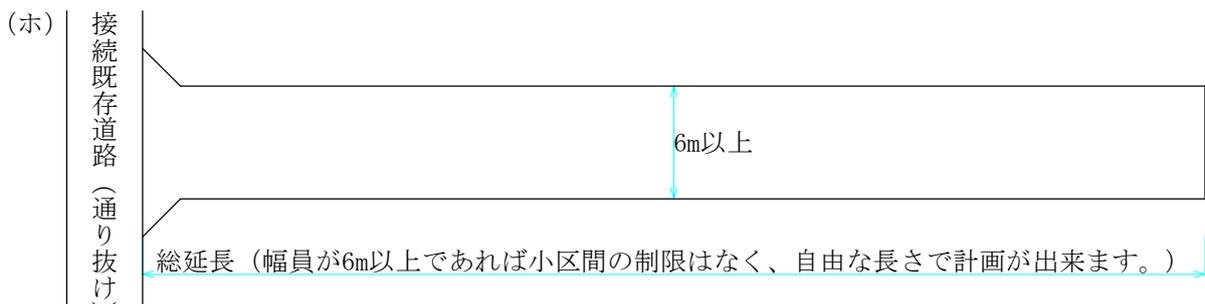
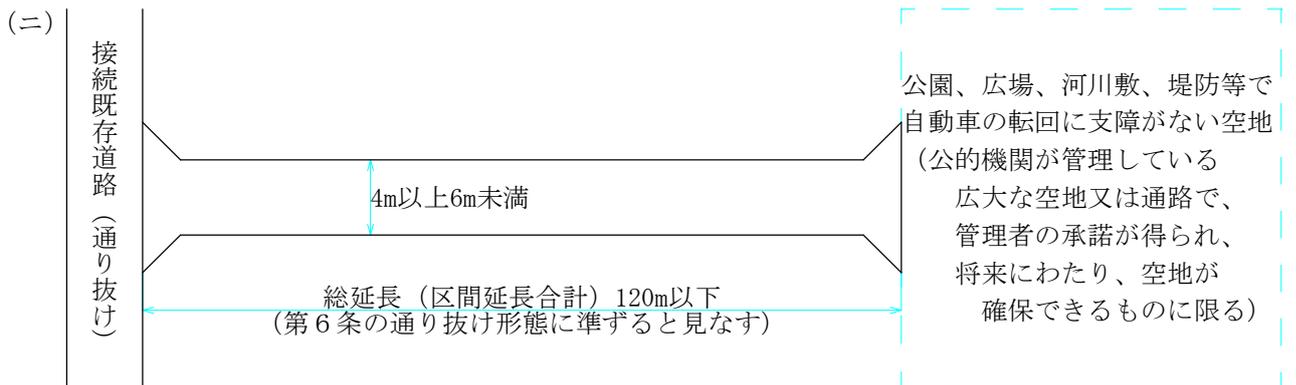
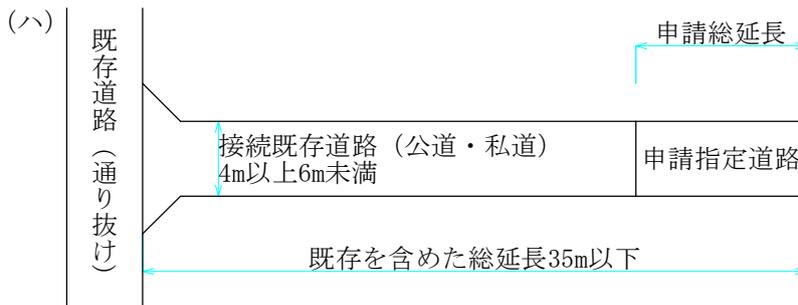
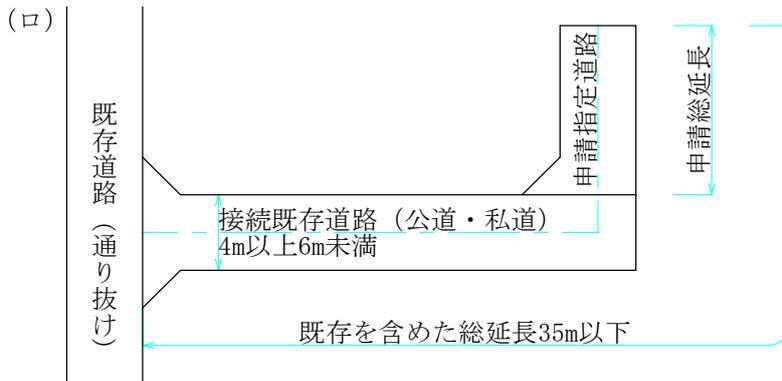
6m道路区間12m以上

区間延長合計120m以内

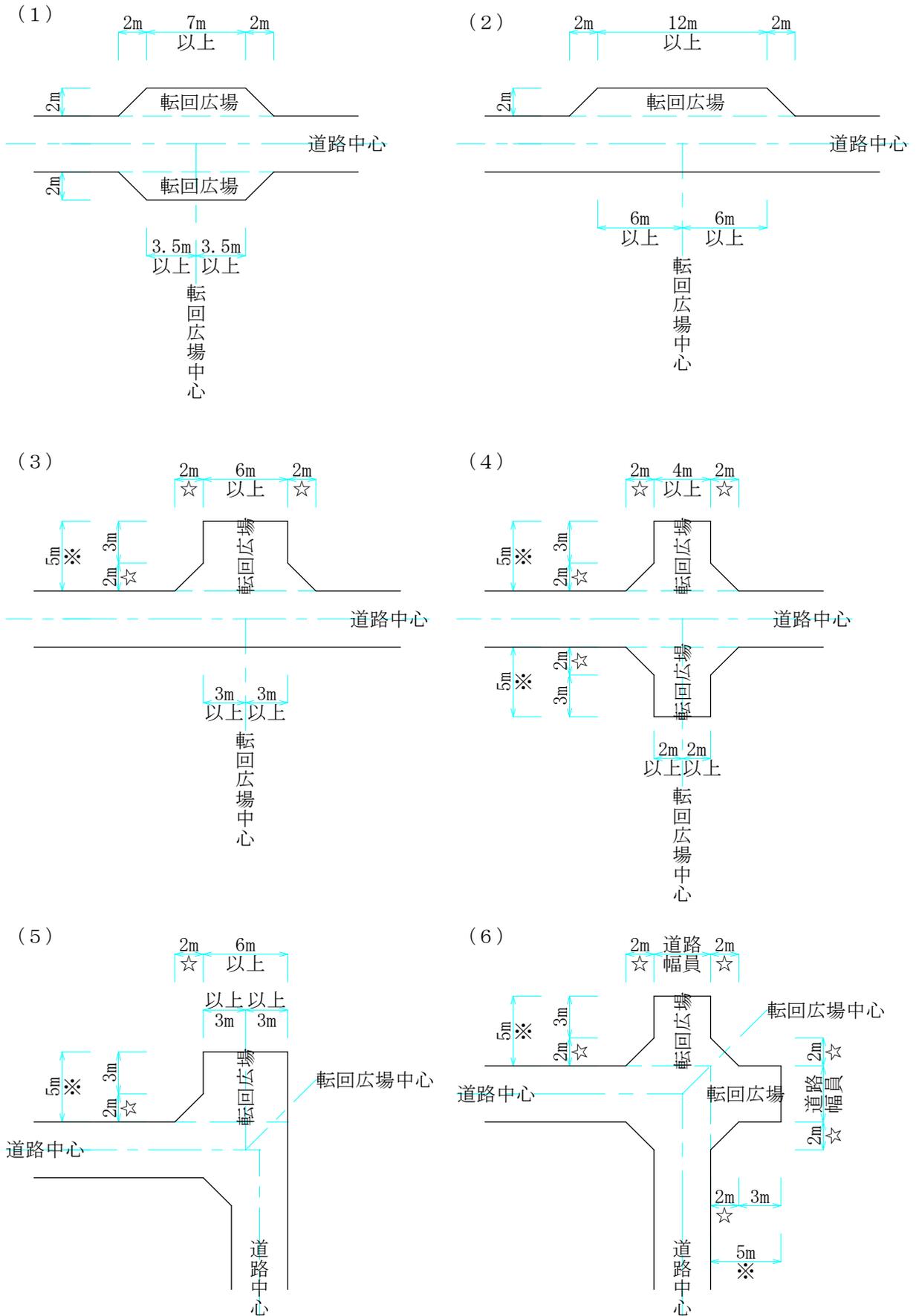
総延長



別図第2 袋状道路とすることができる指定道路（第7条第1項第1号関係）



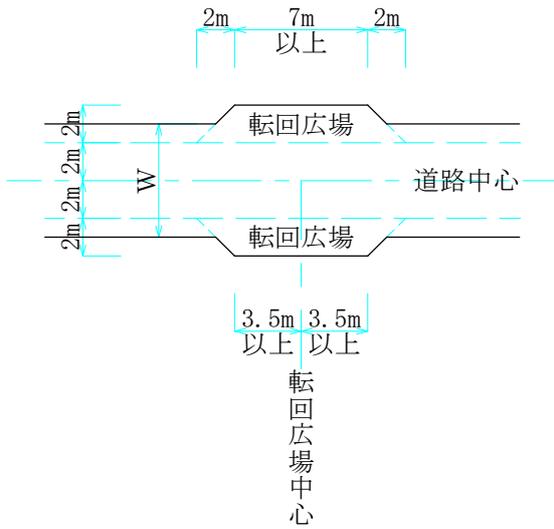
(イ) 中間に設ける転回広場（幅員4m以上6m未満の道路）



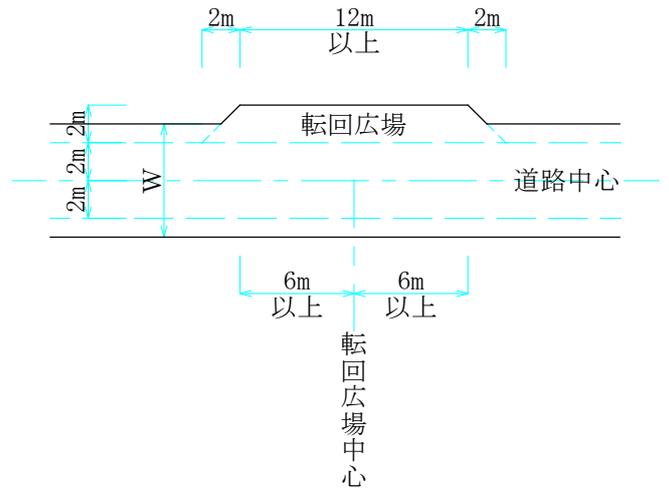
- ・※部分を延長するときは、この部分を転回広場ではなく道路と考え、別途転回広場を検討しなければならない。
- ・転回広場隅切り寸法☆部分は、2m×2mが標準だが、道路交差点に準じ、別表第1の寸法とする方が望ましい。

(ロ) 中間に設ける転回広場（幅員4m以上6m未満の道路内に転回広場の一部を含む場合）

(1)



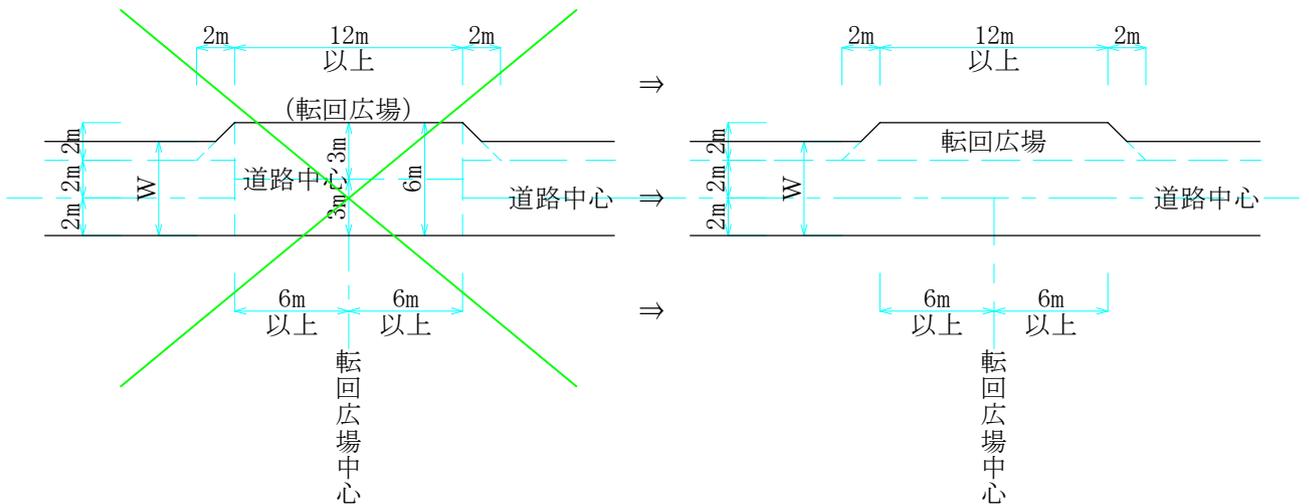
(2)



・転回広場部分の道路幅員は4mしかないため、申請書の幅員表記は「4.00～Wm」となります。

・転回広場部分の道路幅員は4mしかないため、申請書の幅員表記は「4.00～Wm」となります。

(3)



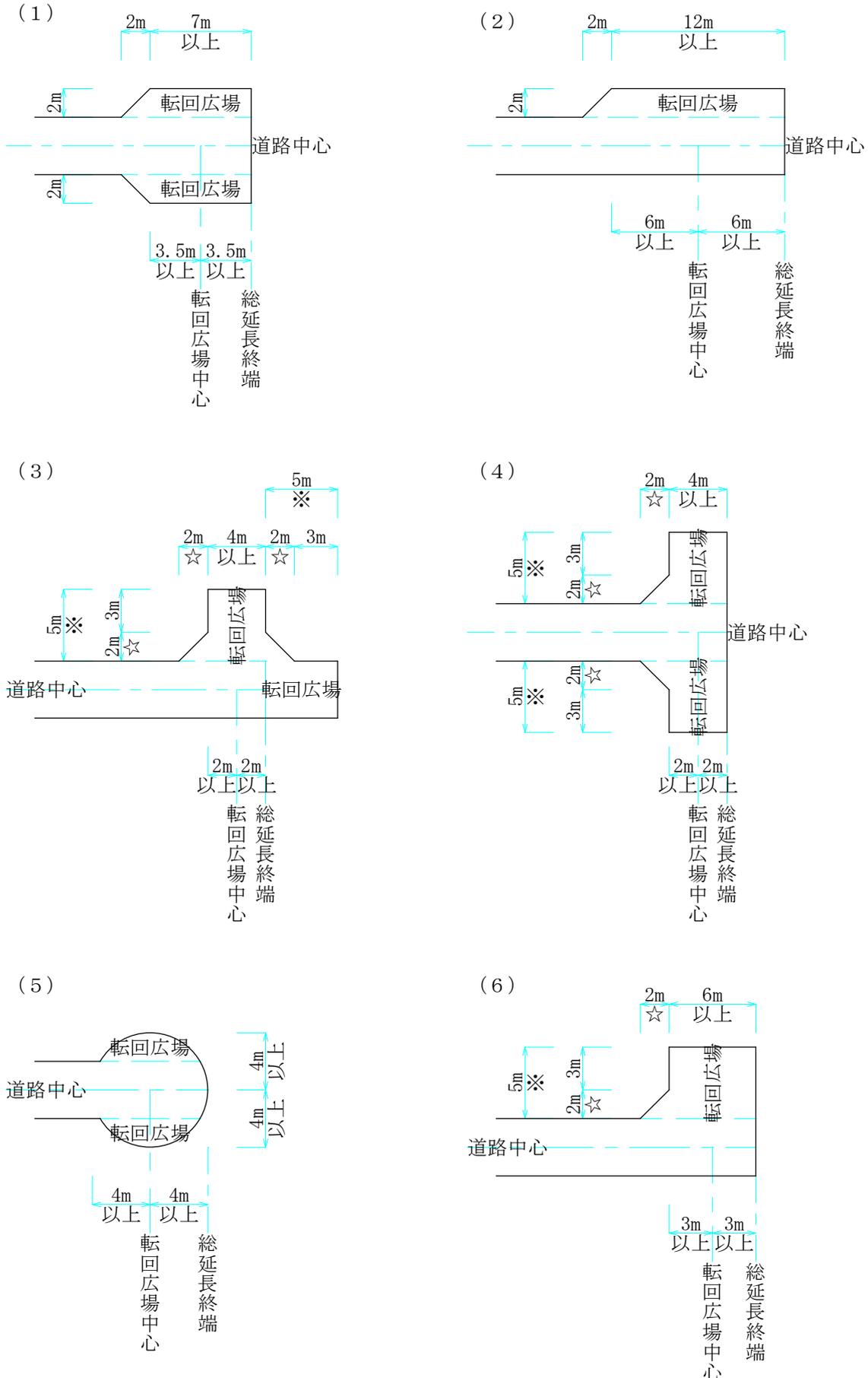
【左図について】

・道路延長の測り方は、路線ごとの起点から終点までを、連続した道路中心線で測ることが原則です。道路拡幅タイプの転回広場部分であっても同様です。よって、左図の延長の測り方は、道路中心線が連続しておらず、転回広場も道路幅員に含めてしまっているため、原則認めていません。ただし、道路拡幅タイプの転回広場の延長が24m以上（通り抜け起点・終点のときは12m以上）ある場合は、転回広場ではなく別路線の道路として扱うので、この限りではありません。  
（別図第1（ハ）、別図第3（ホ）（2）、別図第3（ホ）（3）、別図第3（ホ）（9）参照）

【右図について】

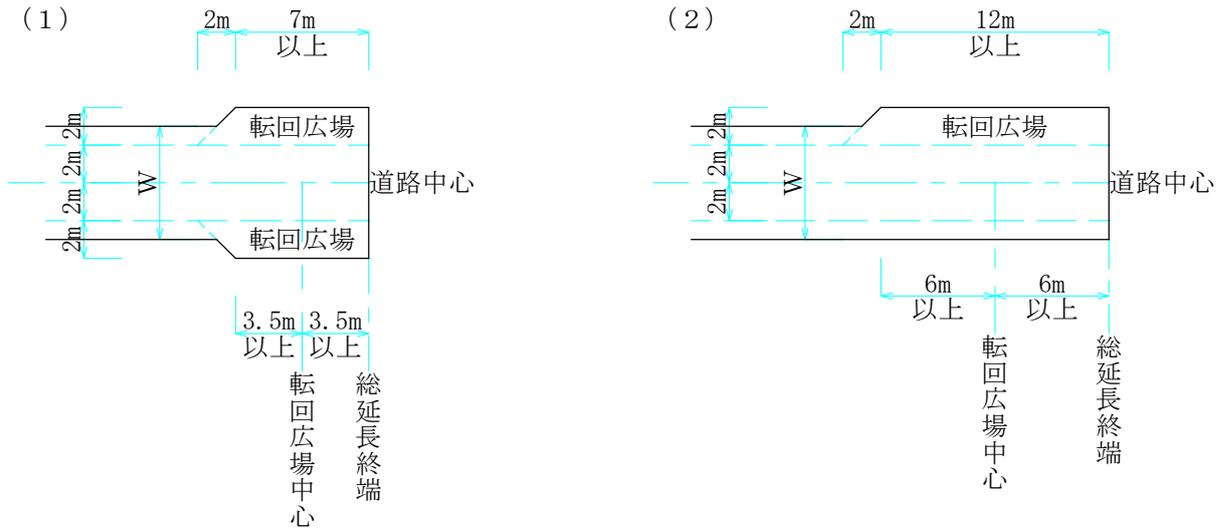
・右図についても、道路中心線が本来の道路中心となっていないため、本来なら、更に道路拡幅を行い道路幅員の外側に2m幅員の転回広場を設けるか、道路中心線を緩やかに屈曲させるなどして、手引きの趣旨に適合するような道路中心線の形状に改めるべき内容です。しかしながら、路線ごとの転回広場が、道路中心線から見て全て同じ側に設けてある場合には、例外的に認めています。ただし、転回広場部分の道路幅員は4mしかないため、申請書の幅員表記は「4.00～Wm」となります。

(ハ) 終端に設ける転回広場（道路幅員4m以上6m未満の場合）



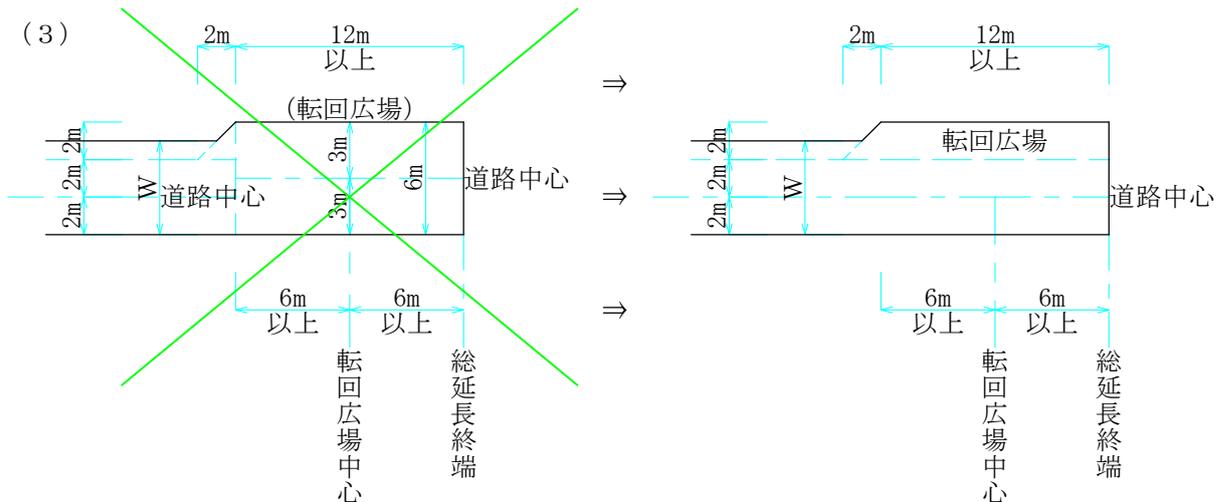
- ・※部分を延長するときは、この部分を転回広場ではなく道路と考え、別途転回広場を検討しなければならない。
- ・転回広場隅切り寸法☆部分は、2m×2mが標準だが、道路交差点に準じ、別表第1の寸法とする方が望ましい。

(二) 終端に設ける転回広場（幅員4m以上6m未満の道路内に転回広場の一部を含む場合）



・ 転回広場部分の道路幅員は4mしかないため、申請書の幅員表記は「4.00～Wm」となります。

・ 転回広場部分の道路幅員は4mしかないため、申請書の幅員表記は「4.00～Wm」となります。



【左図について】

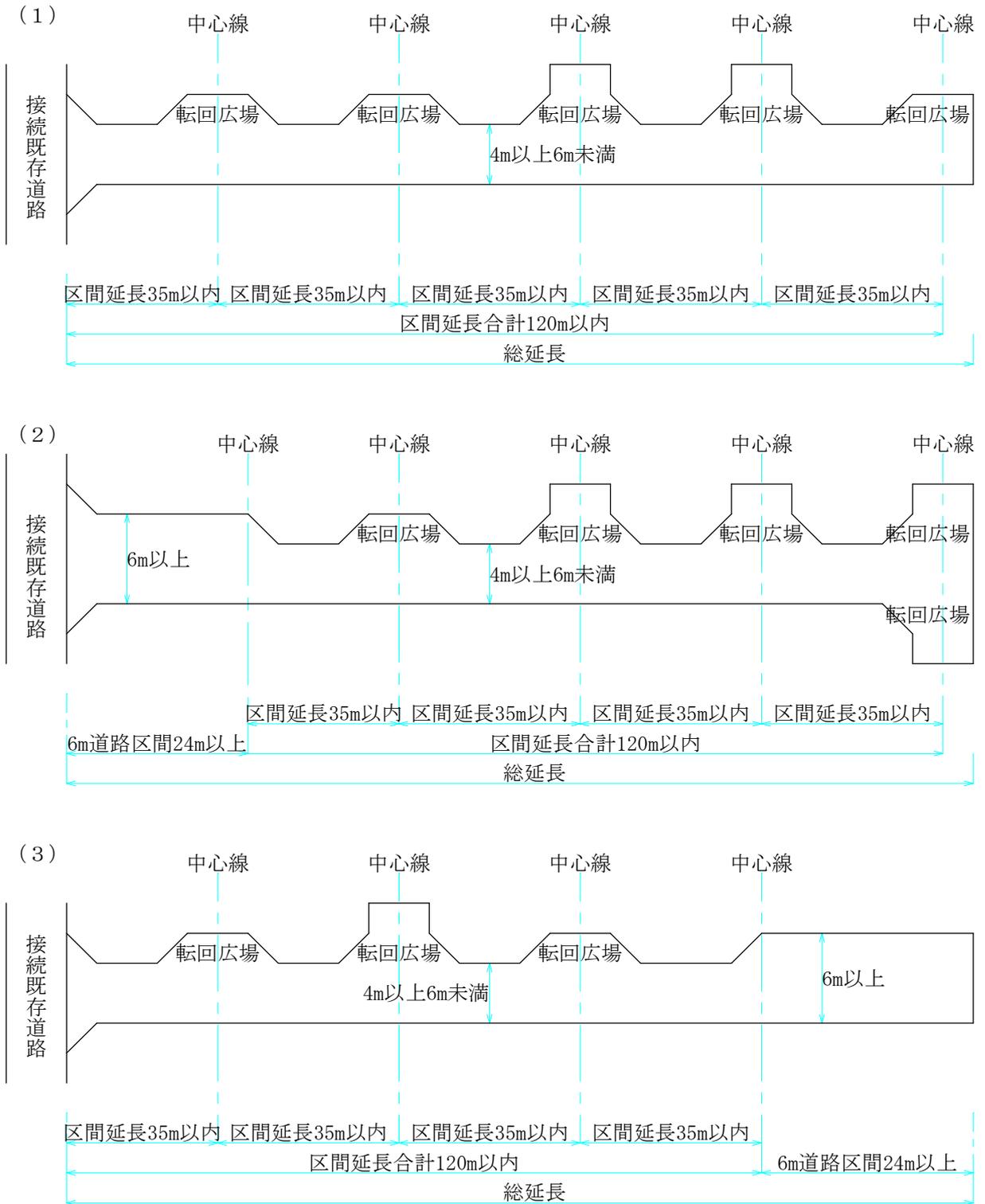
・ 道路延長の測り方は、路線ごとの起点から終点までを、連続した道路中心線で測ることが原則です。道路拡幅タイプの転回広場部分であっても同様です。よって、左図の延長の測り方は、道路中心線が連続しておらず、転回広場も道路幅員に含めてしまっているため、原則認めていません。ただし、道路拡幅タイプの転回広場の延長が24m以上（通り抜け起点・終点のときは12m以上）ある場合は、転回広場ではなく別路線の道路として扱うので、この限りではありません。

（ 別図第1（ハ）、別図第3（ホ）（2）、別図第3（ホ）（3）、別図第3（ホ）（9）参照 ）

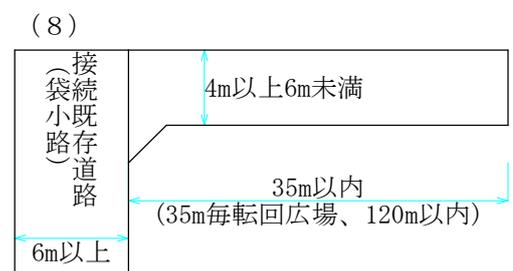
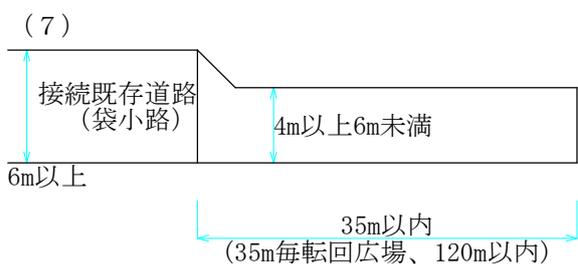
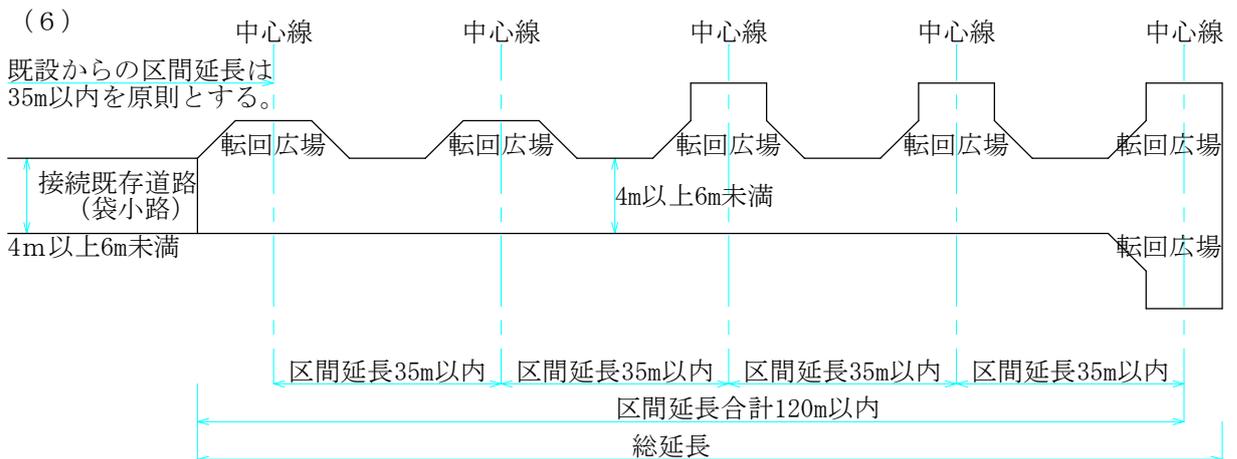
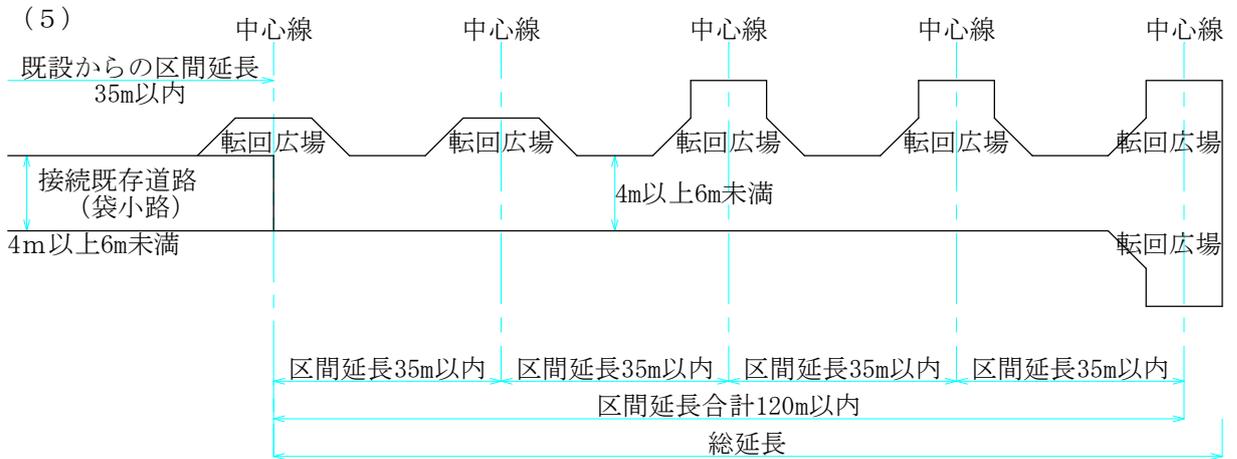
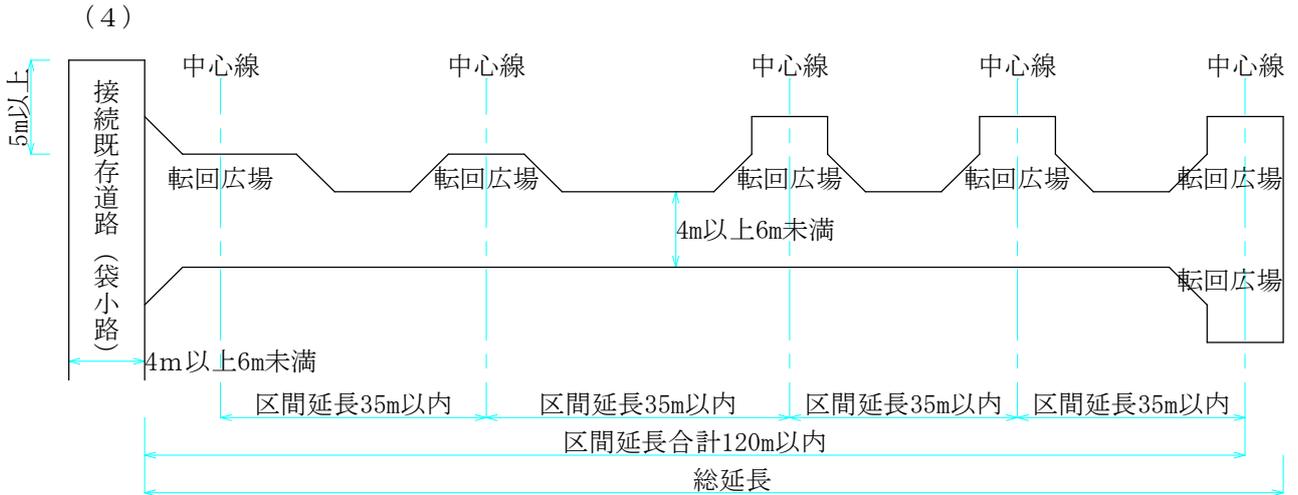
【右図について】

・ 右図についても、道路中心線が本来の道路中心となっていないため、本来なら、更に道路拡幅を行い道路幅員の外側に2m幅員の転回広場を設けるか、道路中心線を緩やかに屈曲させるなどして、手引きの趣旨に適合するような道路中心線の形状に改めるべき内容です。しかしながら、路線ごとの転回広場が、道路中心線から見て全て同じ側に設けてある場合には、例外的に認めています。ただし、転回広場部分の道路幅員は4mしかないため、申請書の幅員表記は「4.00～Wm」となります。

(ホ) 転回広場の区間距離の測り方及び総延長の測り方

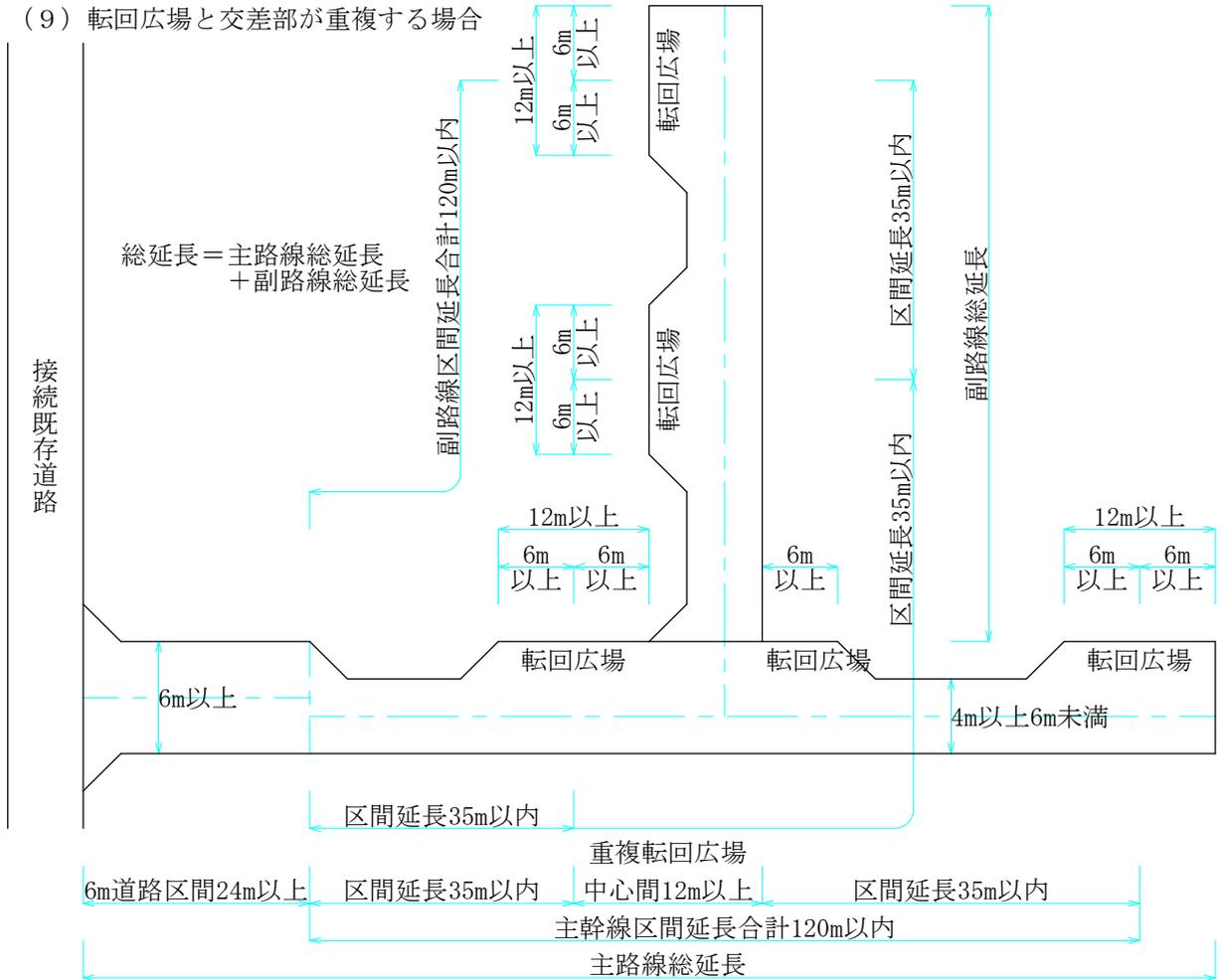


(ホ) 転回広場の区間距離の測り方及び総延長の測り方

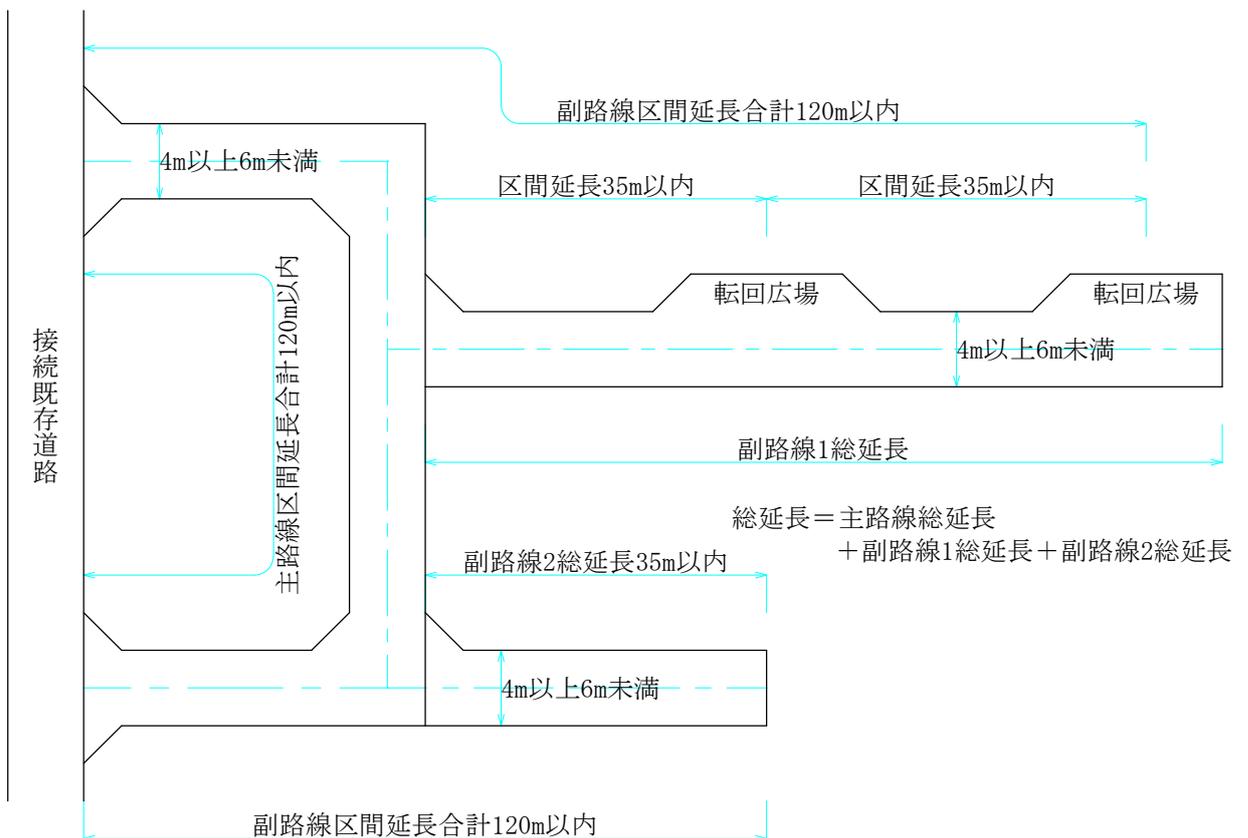


(ホ) 転回広場の区間距離の測り方及び総延長の測り方

(9) 転回広場と交差部が重複する場合

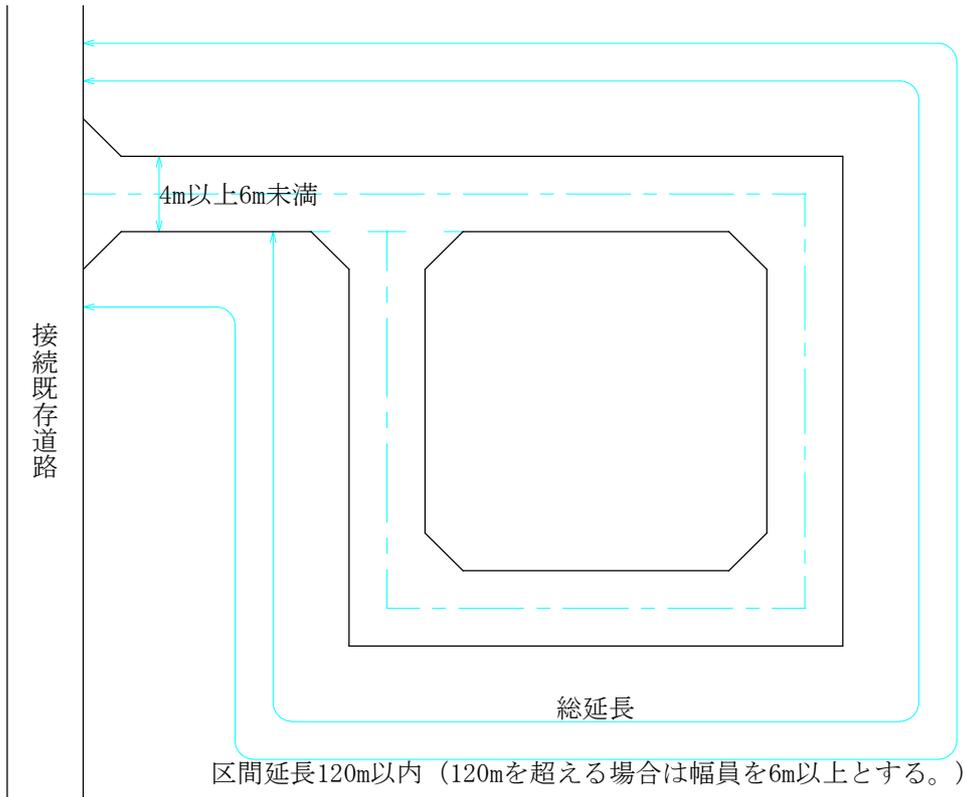


(10) 主路線が通り抜けの場合（往復通行しなくても良い場合）

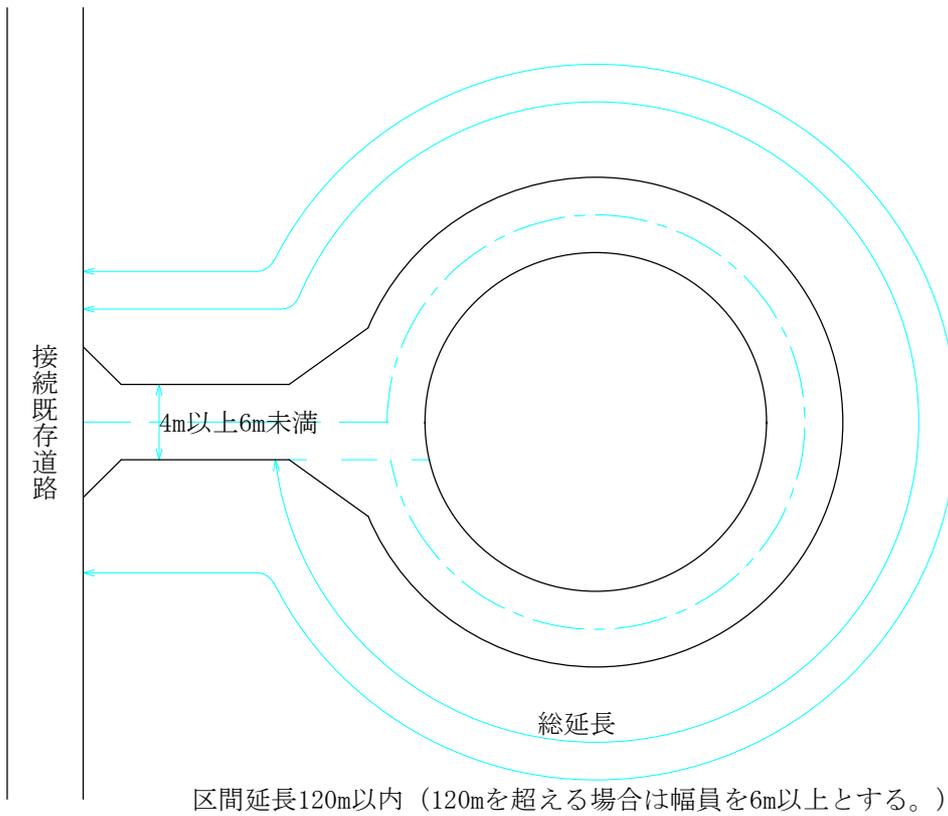


(ホ) 転回広場の区間距離の測り方及び総延長の測り方

(11) 終端が通り抜けの場合（往復通行しなくても良い場合）

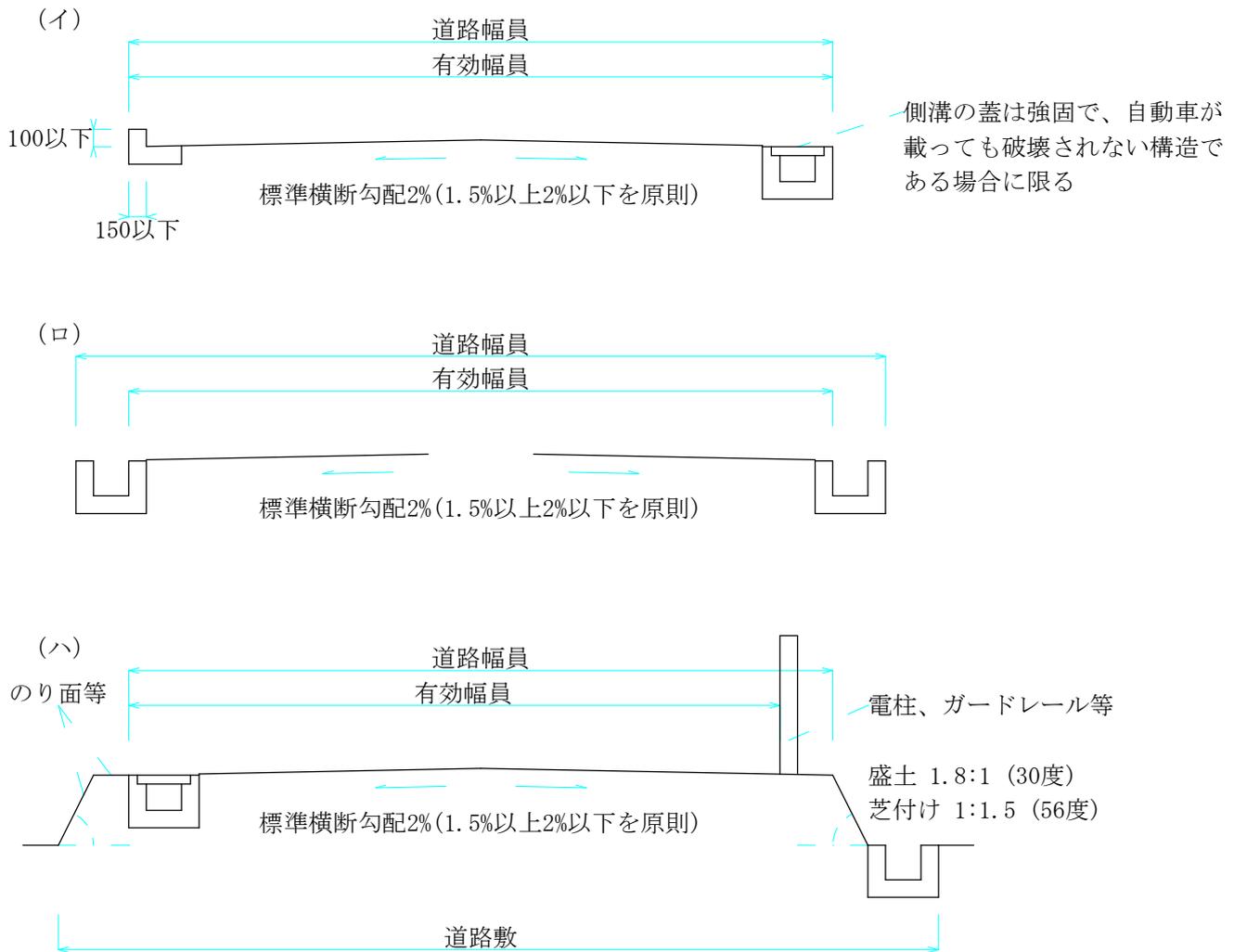


(12) 終端が通り抜けの場合（往復通行しなくても良い場合）



#### 別図第4 指定道路の幅員（第8条関係）

指定道路の中心線に直角に測り、有効を4 m以上確保しなければならない。

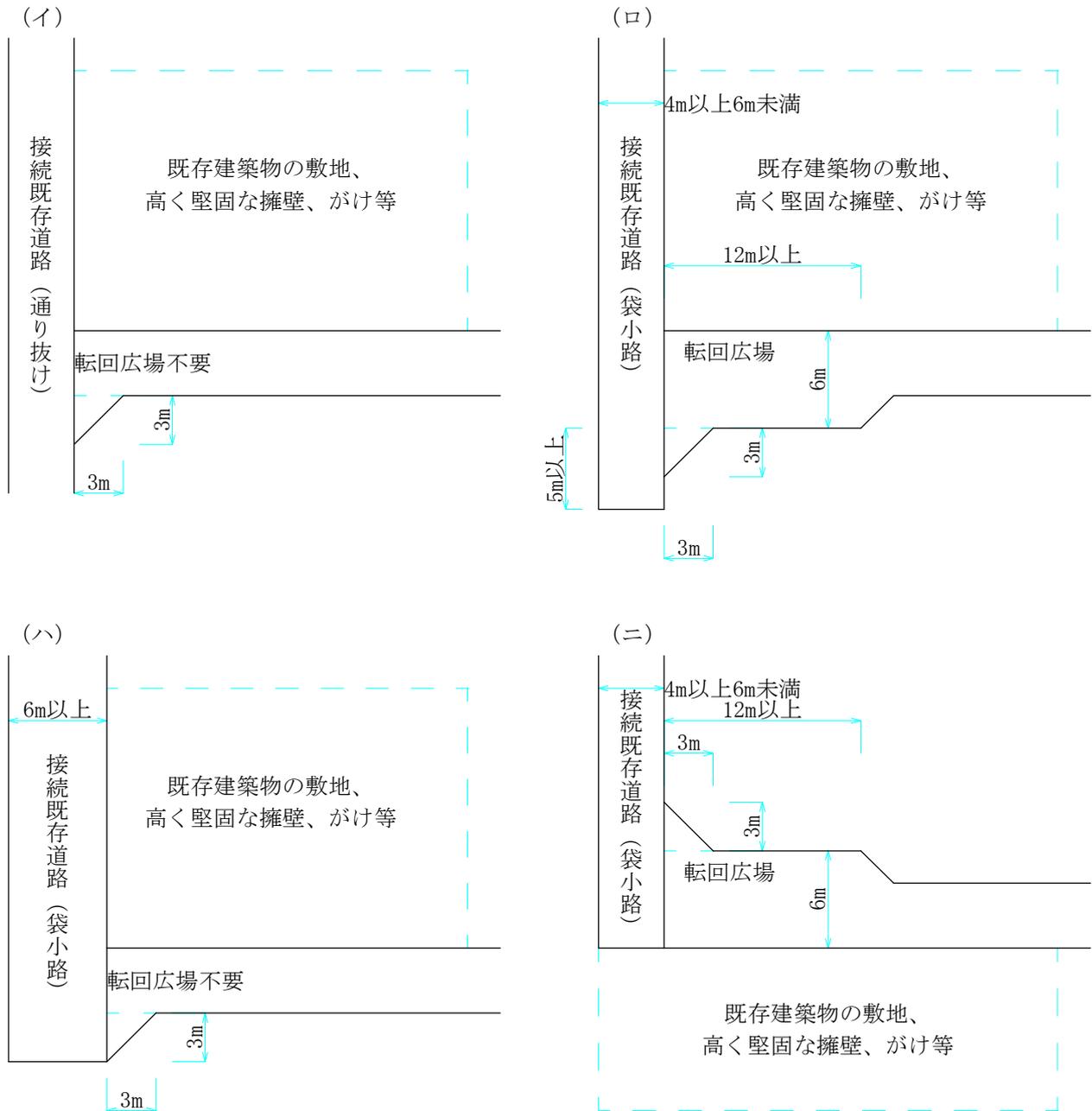


注 申請書4欄の道路幅員は上記図の道路幅員を記入する。  
ただし、道路幅員と道路敷幅員が異なる場合は、道路敷幅員も記入すること。

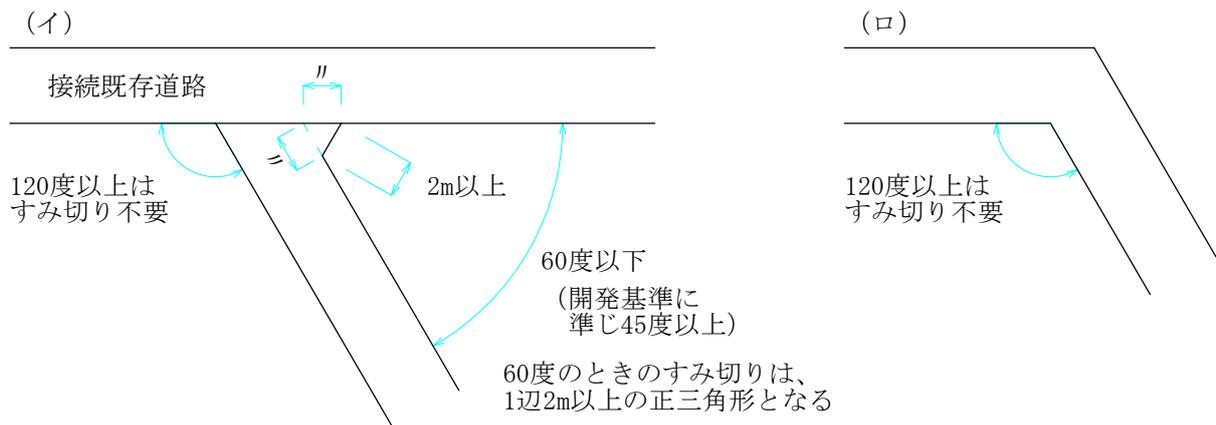
道路幅員と有効幅員あるいは道路敷幅員が異なる場合は、道路平面図及び道路横断面図に道路幅員だけでなく、有効幅員あるいは道路敷幅員も明示する。

原則として、道路内に電柱は設置できない。  
設置するときは、道路平面図及び道路横断面図に予定位置を明示し、有効幅員も明記すること。

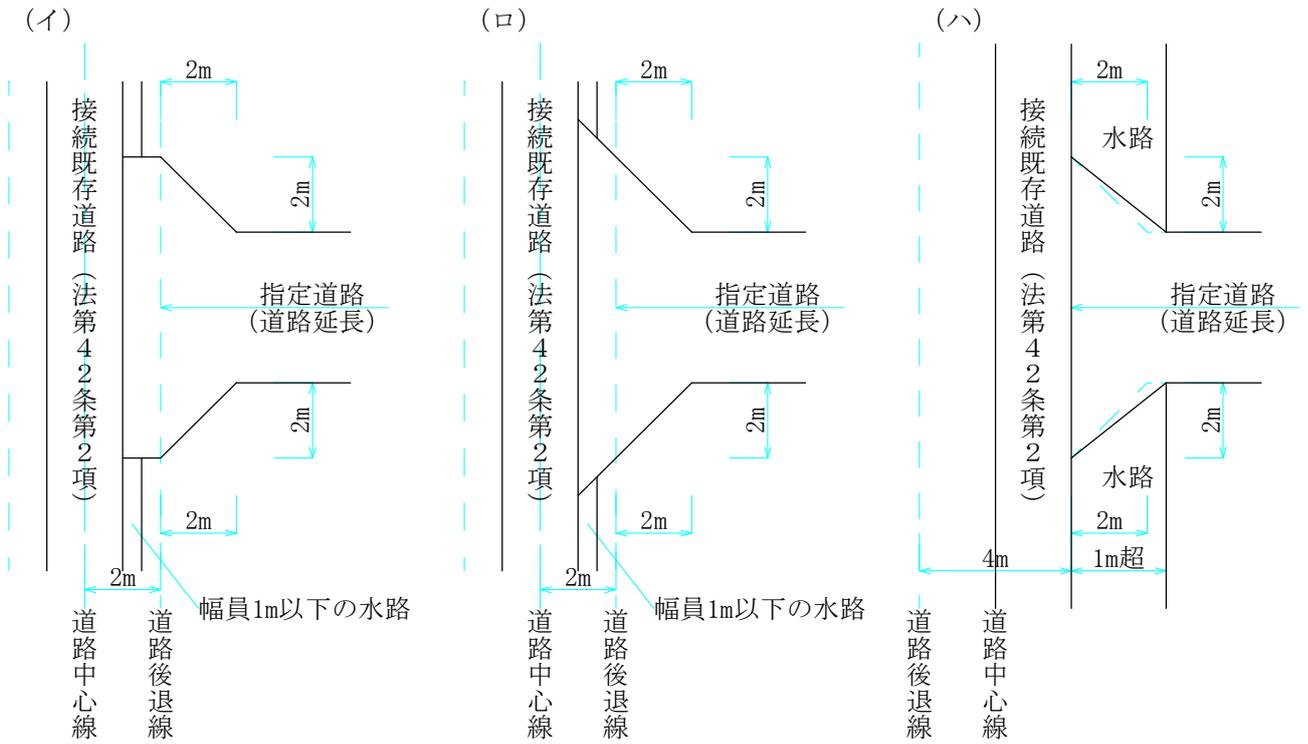
別図第5 やむをえず片すみ切りとする場合（第9条第1項第1号関係）



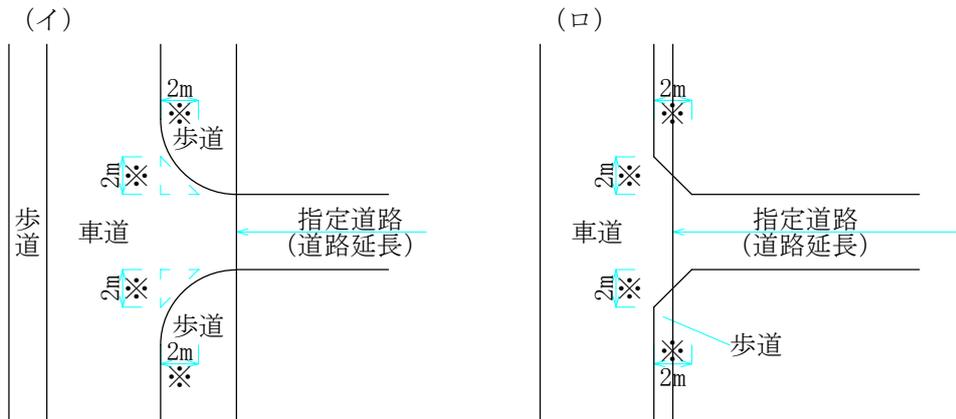
別図第6 内角60度以下及び120度以上のすみ切り（第9条第1項第2号関係）



別図第7 法第42条第2項道路に接続する場合のすみ切り (第9条第2項関係)



別図第8 歩道内にすみ切りを設ける場合 (第9条第3項第関係)

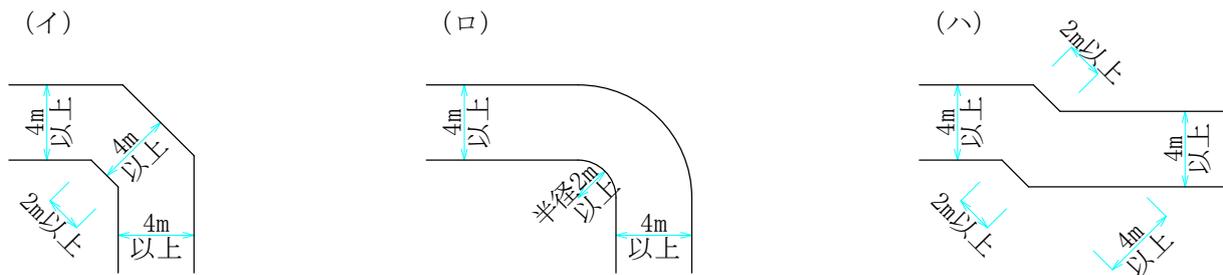


※歩道内のすみ切り寸法は、当該道路のすみ切り基準に従う。

※歩道内のすみ切り寸法は、当該道路のすみ切り基準に従う。

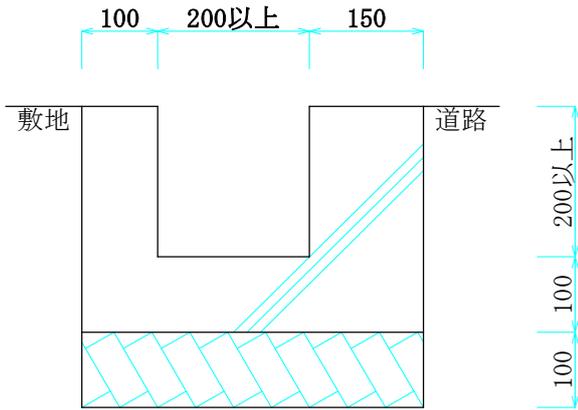
注 道路管理者が歩道・車道を明確に区分している場合に限る。

別図第9 屈曲する箇所が連続する場合 (第9条第4項第関係)

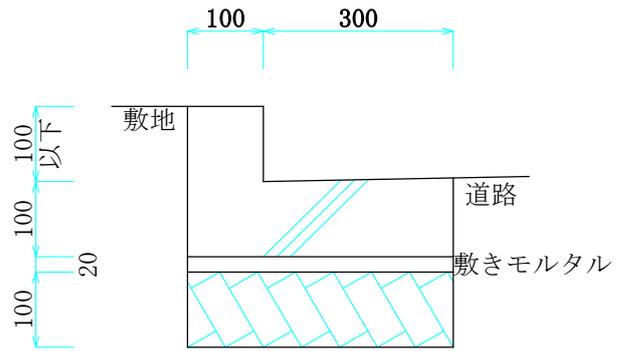


別図第10 側溝標準図（第12条第2項関係）

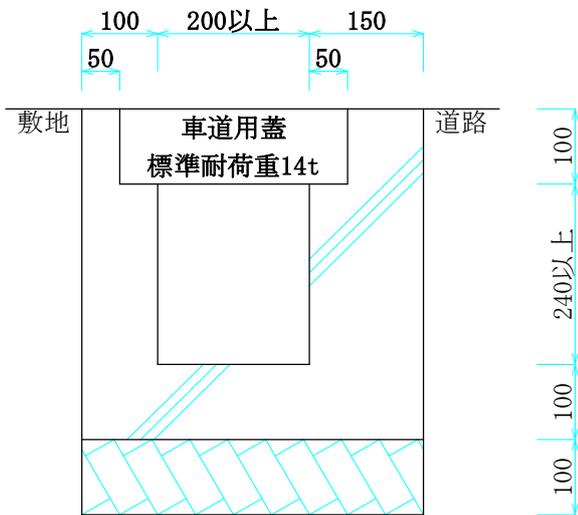
(イ)



(ロ)



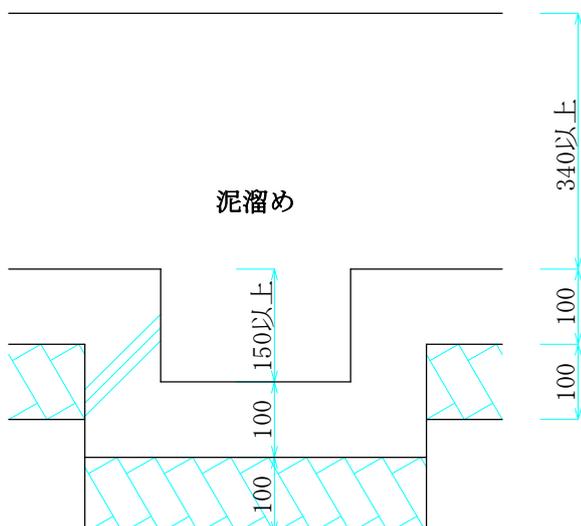
(ハ)



注 敷地と道路に高低差がある場合は、崩落防止対策を施すだけでなく、接道義務を果たす階段又は傾斜路を設けなくてはならない。

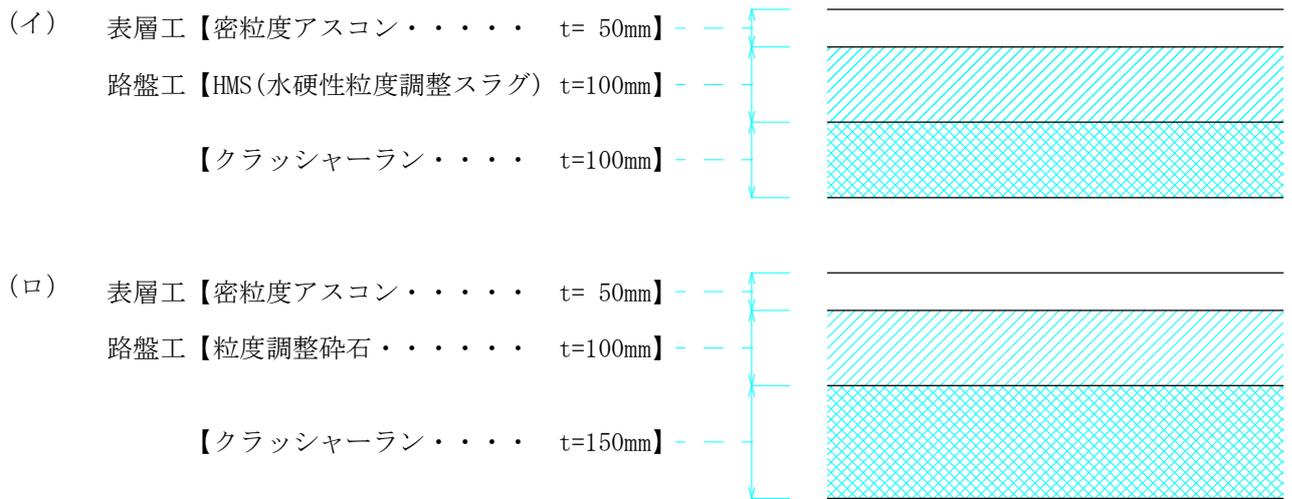
注 やむを得ない理由がある場合のみ、側溝の有効深さは、流量計算を提出し、協議の上この数値以下とすることができる。

別図第11 泥溜め標準図（第12条第5項関係）



別図第12 アスファルト舗装標準図 (第11条関係)

路面の舗装工は、下記の構造以上を標準とする。



注 上記は標準図であり、市道への移管を希望する場合は、所管の道路管理課または各支所の担当部局と協議し、その指導に従わなければならない。